

ひろつか



興味を持って 自由に学ぼう

博物館ワーキンググループの祭りばやし研究会が打ち鳴らす太鼓と笛の音が、博物館内の古民家に響き渡ります。同館にはさまざまな分野のワーキンググループがあり、各会員が楽しみながら活動しています。

新型コロナウイルス関連記事は8面

目次	1～3面… 特集 博物館で豊かな学びを…博物館ワーキンググループの活動を紹介します。	8面…「リトアニア×平塚 ホストタウンNav」 広報ひろつかのPDF版は市ウェブからご覧いただけます。 アプリ「マチイロ」や「Catalog Pocket」からも最新版をご覧いただけます。
	4～7面… 募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ 「子どもの健康」お知らせ掲示板など	





楽しく奏でる 祭りばやし研究会

お祭りに行くと、笛や太鼓が奏でるおはやしの音が聞こえてきて、ついそちらへ引き寄せられる——。こんな経験をしたことはありませんか。「とにかくおはやしを演奏したくて参加しました。おはやしは『楽しむ』ことが一番。ワーキンググループでも、おはやしを楽しむ心を大切にしています」と話すのは、祭りばやし研究会に所属する添田悟郎さん。同会では、おはやしを構成する笛・2種類の太鼓・鉦の練習のほか、会員が日本各地のお祭りで見聞きしたおはやしの情報交換をすることで理解を深め、楽しんでいます。

おはやしは楽譜がなく、メロディーやテンポが地域ごとに大きく異なるのが特徴です。「練習にはおはやし好きの人が飛び入りで参加することも多く、その人の地域で演奏しているフレーズを教えてくれたりもするんですよ」とほほ笑みます。

同会は発表の場が多いのも特徴です。毎年5月にある、博物館こどもフェスタや国際交流フェスティバルなどで腕前を披露し、おはやしの文化を発信

しています。「会で練習した人が地域のお祭りなどでおはやしに取り組むことで、地域の伝統文化の保存へも貢献しています」と話す添田さん。会の活動を通じておはやしの楽しさと技術を多くの人に伝え、それぞれに自分の住む地域でもぜひ、おはやしを演奏してもらいたいと期待します。「おはやしはとても奥が深く練習のしがいもあり、子どもでも大人でも十分に楽しめるものです。今後も、たくさんの人に分かりやすく、おはやしの魅力を伝えていきたいですね」。



演奏の仕方を相談する添田さん
(写真左から2番目)